

IFALPA Safety Bulletin 「新型コロナウイルス (COVID-19) に関するガイダンス」

世界的に新型コロナウイルス感染が拡大する中、IFALPA は Safety Bulletin 「新型コロナウイルス (COVID-19) に関するガイダンス」を発行しました。日本語訳を作成しましたので、以下にご紹介します。是非ご一読下さい。

(これは 2020 年 3 月 23 日に発行された SAFETY BULLETIN の改訂版です)



SAFETY BULLETIN

20SAB04
30 March 2020

新型コロナウイルス (COVID-19) に関するガイダンス

まず認識して頂きたいことは、運航乗務員は常に保健当局や政府の情報に従う必要があるということです。以下にご紹介する情報は、このガイダンス発行時点での新型コロナウイルスに関する一般的な情報です。

航空機の操縦室自体は、適切な衛生対策が施されているのであれば、安全できる空間だと考えられています。その理由として、リサーキュレーションファンによって再循環された空気が「HEPA フィルター」を透過していることが挙げられます。航空機内で感染者がいたとしても、ウイルスは循環された空気によって拡散されるわけではなく、感染者がくしゃみや咳をした時の飛沫による直接接触で感染することが分かっています。そしてウイルスは 4 日間もの間、物質の表面で生存することが明らかになっています。

新型コロナウイルスの直径は約 0.125 μm の大きさであること、そしてこの粒子サイズは HEPA フィルターによって高効率で捕らえられる大きさです¹。

運航乗務員は以下の推奨事項を遵守してください

運航前

- スケジュール作成の段階において運航乗務員をグループ分けして下さい。そしてグループメンバー同士

¹ サブミクロンやナノ粒子の物質を HEPA フィルター等の物質で除去する原理については 7 ページに記載

<https://ntrs.nasa.gov/archive/nasa/casi.ntrs.nasa.gov/20170005166.pdf>

を組ませることによってグループ外への感染拡散が防止出来ます。

- インフルエンザの症状がある運航乗務員やその他スタッフは出社してはなりません。これはウイルス感染している可能性がある者が操縦室に入室することを防止すると共に、操縦室の物質表面にウイルスが付着することを防止するためです。
- 地上スタッフとの接触する運航乗務員を最小限とするような手順を整えて下さい。
- 操縦席に入室する全ての者は適切な衛生マスク等を装着する必要があります。

運航中

- フライトの準備を始める前に、全ての表面を除菌シートで消毒してください。
- 手指消毒ジェルを頻繁に使用すること、さらに何かを口にする時はそれを必ず使用してください。
- 自分の目、鼻、口といった顔の部分には触れないようにしてください。
- 操縦室の酸素マスクを使用する場合には、事前に除菌シートを使用してください。

運航宿泊先

- 公共交通機関は利用しないでください。
- 可能な限りホテルの部屋内で過ごしてください。
- 外出は最小限に留め、公共の場に出る時は可能であれば他人とは2m程度の距離を保ってください。
- 人ごみや、多くの人で賑わっている場所の利用は控えてください。
- 飲食はホテルの部屋で、ルームサービスかデリバリーを利用してください。もしそれらが利用できない場合には、ホテル内のレストランを利用してください。もしホテル内になければ、最寄りのレストランを利用してください。
- 手は石鹸を使って20秒間以上洗うか、アルコール濃度60%以上の消毒剤を頻繁に使ってください。特にホテルに入る時や食事の前には実施してください。

健康な人が感染症にかかるのを防ぐためにマスクを着用することが有効である、という根拠はありません。マスクを着用してのフライトは推奨できません。手袋を利用しても顔に触れることを防止することは出来ませんし、手袋を着用していないのと同じように感染が広がる可能性があります。

FAA（米国連邦航空局）やWHO（世界保健機関）が発行した、航空機を運航中にウイルス感染のリスクを抑止する方策に関する情報を参考にしてください*。

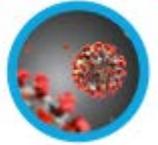
<https://www.faa.gov/news/media/attachments/CDC%20FAA%20airline%20guidance.pdf>

<https://apps.who.int/iris/bitstream/handle/10665/331488/WHO-2019-nCoV-Aviation-2020.1-eng.pdf>

*このガイダンスは2020年3月20日現在のものですので、最新版を確認してください

フライト後に自主隔離の必要がある場合は、当局の指導に従ってください。日帰りフライトであれば、自主隔離の必要はありません。運航宿泊を伴う場合には、その行先、感染リスク、そして行先での感染リスクを考慮して判断してください。タクシーやバンでの移動、ホテル内の滞在、ルームサービスの利用、他人との距離を置くことなどを行なった運航乗務員は、感染リスクを抑制することが出来ています。





親愛なるパイロットの皆様

新型コロナウイルス（COVID-19）の世界的大流行の最中、私たちの仲間の多くはまだ通常のフライト、間引き運航、帰国支援のチャーター、さらには貨物便の運航を行っています。多くの当局からウイルス拡散を防止するためのガイダンスを発行しており、それらはあらゆる分野における細部に渡った解説がされています。そうしたもののうち、必ずしも正しいとは言えない情報もまた存在していることもあって、こうした特別な業務を実施する運航乗務員にとって、必要な関連情報を入手することは時に困難な場合もあります。

この情報は、新型コロナウイルスに関する公式ガイダンスを収集し、一枚にまとめて適切な情報としてまとめて提供するためのものです。使用した情報はそのままの表現で示しています。そして（【EASA】）のようにリンクをつけていますので、その情報源を閲覧することが簡単に出来ること、また情報がアップデートされているかを確認することが出来ます。

この情報が運航乗務員である貴方や家族、友人、そして同僚をウイルス感染から守ることの一助となることを IFALPA スタッフ一同、心より願っています。ウイルスの感染拡大を防ぐためには「患者増加のスピードを抑えて流行のピークを下げる」ことが大事です。そうすることで私たちが提供する重要なサービスで働くことのリスクを減少させ、医学的な情報を必要な全ての人に付与することに繋がります。

皆さん、お元気で。そして安全飛行を！

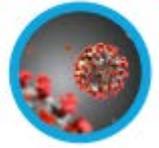
IFALPA

プロフェッショナルパイロットの声を代弁する集団

マスクの利用について

COVID-19 Safety Aspects

Guidance for Flight Crews



Surgical mask
(protects others)

- 医療用マスクは他者への感染を防ぐために、そして呼吸器疾患のある人たちのために取っておくべきです。[【WHO】](#)

- 健康な乗務員が感染症にかかるのを防ぐためにマスクを着用することが有効であるという証拠は殆どありません。[【IFALPA】](#)

- 客室乗務員は防護着の着用を推奨します [【EU Health Gateways】](#)

- 客室乗務員は医療用マスク（N95 と同等レベル）の着用を推奨します。[【CAAC】](#)

- 地上スタッフが機内に入る際には、乗務員は防護具の着用と共に直接接触することを最小限に食い止めなければなりません。[【EASA】](#)



Respirator
(protects yourself)

N95 (US) = P2 (EU) ≥94%
N99 (US) = P3 (EU) ≥99%

以下の者はマスクの着用を推奨

- 咳やくしゃみを伴う呼吸器疾患者を乗客としてサービスする乗務員
- 疾患で呼吸器系ウィルスの拡散を防ぐ目的の為
- マスクを着用することが出来ない（呼吸器系）疾患者と隣席する者

以下の者はマスクの着用は不要

- 酔いや吐き気を伴う疾患者（呼吸困難に陥る為）
- 疾患でマスクの着用を容認できない者（くしゃみや咳をするときには口をかばうように勧める）

グローブの利用について



Glove standards [【CEN】](#)

- グローブを着用しても顔を触ることは防止できません。[【IFALPA】](#)
- 感染の疑いがある乗客へは UPK（伝染病者対応キット）を利用してください [【IATA】](#)（次ページ参照）

航空機消毒

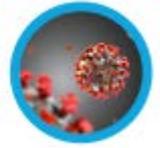
- 24 時間以内毎の到着時に航空機用の消毒液を利用して消毒を行ってください。[【EASA】](#) [【CAAC】](#)
- 消毒手順の詳細を参照してください。[【EASA cleaning】](#)
- 汚染されたものを確実に処理してください。下痢、嘔吐物、血液、体液等で汚染された箇所を清掃担当者伝えてください。詳細は血液媒介病原菌に関する基準を参照のこと。[【29CFR1910.1030】](#)



乗務員の健康状態

➤ 乗務員を含め、スタッフは風邪の兆候がある場合に、勤務してはいけません。これは操縦室内内に患者を入れないことが目的であり、更に操縦機器の表面上にウイルスを付着させない為です。[【IFALPA】](#) [【EASA】](#)

COVID-19 Safety Aspects Guidance for Flight Crews



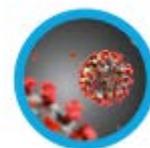
- 病気の方はジャンプシートの利用、また便乗移動を行ってはいけません。[【FAA】](#)
- 渡航歴を医療関係機関へ情報提供を行ってください。[【EASA】](#)

巡航中における患者(または疑いのある者)への対処法

- 乗務員のうち一人を患者の担当に専念させるべきで、可能であれば伝染病患者への対応訓練を受けた者が相応しいです。患者専用として化粧室1カ所に使用制限をかけると良いでしょう。[【WHO】](#)
- 準備された防護具(マスクやグローブ)を利用してください。[【IATA】](#) [【CAAC】](#) [【WHO】](#)
- 患者との接触は最小限に留めてください。[【CDC】](#)
- 患者にはマスクを装着させ、ウイルス感染を防いで下さい。そして患者が乗務員や他の旅客と出来るだけ接触しないようにしてください。[【WHO】](#)
- (患者)を客室最後方の3列に着席させ、後方の化粧室を限定してください。[【CAAC】](#)
- プラスティック袋を用意して、使用済みティッシュや嘔吐袋等の汚染物を詰めてください。[【CDC】](#)
- 患者の頭上にある空調を止めてください。これによりウイルスの拡散を防ぐことができます。[【EU Healthy Gateway】](#)
- 乗客に対し、具合が悪い時には報告するようにと伝えてください。[【EASA】](#)
- 非接触型の体温計を用意してください。[【CAAC】](#)

着陸後

- 地元当局の指示に従ってください。[【EASA】](#) [【WHO】](#) [【ACI】](#)
- 患者をケアした乗務員は、他乗務員との接触を最小限にしてください。個別の移動手段を用意して、到着地にて隔離してください。[【CAAC】](#)
- フライト後に何等かの症状が出た場合には専門医院に問い合わせてください。[【CDC】](#)



ステイ先での配慮

- ホテル内で過ごし、他人との距離を置いてください。食事はルームサービスやデリバリーサービスを利用してください。公共交通機関の利用は避けてください。[【IFALPA】](#) [【FAA】](#)
- 運宿中に疾患症状となった場合に備えた準備をしておいてください。[【FAA】](#)

ディスパッチルームにて



- 乗務員の勤務割計画時において、乗務員をチームに分けることでウィルスの感染を防ぐことができます。そうすることで操縦室内へのウィルス付着を防ぐことができます。[【IFALPA】](#)
- 乗務員と運航管理者は、新型コロナウイルスの影響による代替空港の変更や空域閉鎖に備えた燃料計画を行ってください。[【ECA】](#)

操縦室内の衛生管理



- ヘッドセット（共有している場合）、マスクやなどの備品をアルコール消毒液（70%以上）で消毒してください。[【ECA】](#)
- 巡航中において酸素マスクの装着が必要な場合、使用前後に除菌シートを利用して下さい。[【IFALPA】](#)

心理状態

- フライトすることに気が進まない運航乗務員に乗務を強いてはいけません。精神的な余裕度は、運航における様々な判断に影響することから、新型コロナウイルスへの懸念がある状態でのフライトは好ましくありません。[【ECA】](#)

(濃厚接触にならないために) 社会的距離の保持

- 運航乗務員同士、出来るだけ 1.5m の距離を保つようにすることを心がけてください。業務中や食事の時間に集団で集まるのは止めておきましょう。[【ECA】](#)

以上